

6 人間観

6-1 人間の分類

6-1-2 技能と性格による分類

父親のイガリモスケは、上徹別のマタギだった。年に1、2頭はクマを捕る。徹別には父親の他に徹辺ヒロシというマタギがいた。(釧路編 2-1-7、2-2-1 参照)

[屈斜路 日川キヨ氏]

6-1-3 身分・家系による分類

徹別コタンには、ヌサ nusa (祭壇) のある大きな家が1軒あり、徹辺シロー、アキという老夫婦が住んでおり、熊も「あずかっていた」。1年に1回の熊祭りがあるとき、その家で行った。

徹辺シローは徹別コタンのコタンコロクル kotan kor kur だった。

[屈斜路 日川キヨ氏]

6-1-4 親族名称

父 アチャ áca ~ aca ~ acaha

母 ハポ hápo ~ hapo

これらのことばは、私が子供のころ家の中で使っていた。母が父を呼ぶときは、「おとうさん」、父が母を呼ぶときは「おつかあ」「おかあちゃん」と呼んでいた。クアニ ハポ ウワッサム kuani hapo uwassam 「私の母はもういない」アチャ モ カ ウワッサム aca mo ka uwassam 「私の父もいない」

オシネプ メノコク ニヤクカイキ カムィ ウタラ ピリカノ ヌカラ アンナ osnep menoko ku ni yakkayki kamuy utar pirkano nukar an na. 「親兄弟もいない女だけど、神様方、見守ってください。」オシネプとは、夫のあるなしに関わらず、親兄弟がいないということだ。

兄 ユボ yúpo、オンネ ユボ 「大きい方の兄」、ポンユボ 「小さい方の兄」

姉 オンネ ネ アネ onne ne ane か。アイヌ語で何というか忘れた。

叔父 オンネ エカシ onne ekasi、ポンエカシ pon ekasi と言った。

叔母 コンナルペ konnarpe。オンネプ コンナルペ onnep konnarpe 「大きい方の叔母さん」、ポン コンナルペ pon konnarpe 「小さい方の叔母」。オンネ ハポ onne hapo、ポン ハポ pon hapo とも言った。

従兄弟（覚えていない）

祖父 エカシ ekasi オンネ エカシ onne ekasi 「年取ったお爺さん」、ポン エカシ pon ekasi 「若い方のお爺さん」

祖母 フチ huci。オンネ フチ onne huci は「一番のおばあさん」という意味だ。ポン フチ は「小さい方のおばあさん」（フチ、オンネ フチ、ポン フチは、それぞれコンナルベ、オンネ コンナルベ、ポン コンナルベと同じ意味だ、とも答えられた）。

年寄りをオンネブともいう。

オクカイ okkaypo、オクカイポ okkaypo は「男の子」、マツカチ matkaci は「女の子」で、同じ年頃だ。オンネ マツカチ onne matkaci とかポン マツカチ pon matkaci と言い分ける。単に「子供」というのは、エカチ ekaci という。「幼い子供」は、ポンペ ponpe、「中学生くらいの子供」はオンネブ onnep という。

赤ちゃんは、ソントク sontak という。

若い人、16、7、8歳の男をペウレクル pewrekur という。女をどういふか分からない。

男は、オクカイ okkay、女はメノコ menoko という。

また、子供でも大人でも女はオペルケ operke ともいう。オンネ フチ onne huci でも オペルケ operke という。

「家の奥さん」のことをカツケマツ katkemat という。「家の主人」はオクヘ okuhe という。ポン カツケマツ pon katkemat は若い女で、結婚していない。

嫁はコシマツ kosmát ~ kosmat（無アクセント）という。オンネブ コシマツ onnep kosmat というのは、年配の嫁だ。

結婚した女はマチヒ macihi という。オンネブ マチヒ onnep macihi ~ オンネ マチヒ onne macihi といえ、30代の嫁さんだ。

「私の夫」は、クアニ オクヘ、「あなたの夫」はエヤニ オクヘ eyani okuhe という。

ニシパ nispa というのは、「親方」であり、人を使う人のことだ。

[屈斜路 日川キヨ氏]

6—2 身体部位名称

心臓 サンベ sanpe

腹 ピセ pise

頭 パケ pake

口 チャロ caro

足 チキリ cikiri

手 テケ teke

耳 キサラ kisar

鼻 イトゥ itu

目 シキ siki

小便 オコイマ okoyma。オコイマ サンケ okoyma sanke 「小便する」 オコイマ サンケ アンナ okoyma sanke an na 「小便したいな」

血 ケム kem

肉 カム kam

[屈斜路 日川キヨ氏]

6—3 人名

母の名をトゥットウルセ Tutturse というのは、「パツと速く落ちる」という意味で、動作が機敏であることを意味する。父にはアウンタリ auntari (アイヌ) の名はなかった。

[屈斜路 日川キヨ氏]

6—4 身体の世話

6—4—3 病気と治療

一番悪い病気のことをウエン シイエイエ wen siyeye ~ ウエンベ シイエイエ wenpe siyeye という。肺病 (肺結核) のことだ。

サンベ ウエン sanpe wen 心臓が悪い。

ピセ アラカ pise arka 腹が痛い。子供に「おまえ、腹痛むのか」と問うときは、ピセ アラカカ pise arka ka と言う。

パケ アラカ pake arka 頭が痛い

チャロ カ ベテツネ caro ka petetne (オンネブ onnep (年寄り) になって) 口がまわらず、ものも言えない

チキリ アラカ cikiri arka ~ チキリ ウエン cikiri wen 足が痛い、足をくじいている

テケ アラカ teke arka ~ テケ ウエン teke wen 手が痛い テケ カ チメンケ teke ka cimenke ~ テケ カ チメムケ teke ka cimemke 手がしびれて馬鹿になっている

キサラ ウエン kisar wen 耳が痛い、悪い

アシパ aspa 「耳が聞こえない」

イトゥ ウエン itu wen 鼻が痛い

シキ ウエン 目が悪い。シキ カ ヌカラ カ ウンケ siki ka nukar ka unke ~ シキ カ ヌカラ カ イサム siki ka nukar ka isam ~ シキ ウエン ワ ヌカラ カ ウンケ siki wen wa nukar ka unke 「目が見えなくなっている」

オムケ omke ~ オンケ onke 風邪で咳が出る

ポンノ アラカ ponno arka 少し痛い。

ポロンノ アラカ poronno arka 大変痛い。

「怪我」「傷」(分からない)

「腫れる」は、オンネ フプ *onne hup* 「大きく腫れている」、ポン フプ *pon hup* 「ポン フプ
「小さく腫れている」という。

「かさぶた」「膿」(分からない)

[屈斜路 日川キヨ氏]

6—4—5 お守り・まじない

体の弱い子のためのまじない

父は、神主みたいなことをする人で他の家に頼まれてカムイノミ *kamuynomi* (神への祈り) をしに行った。葬式の引導渡しもしていた。

自分は身体が弱かったから父がアペウチカムイ *ape uci kamuy* (火の神) をお願いして、それからチセコロカムイ *cise kor kamuy* (家の守り神) をお願いして、身体が丈夫になるようにカムイノミ *kamuynomi* (神への祈り) した。お守りは、もらってなかった。

何日かに1回お払いをしてくれた。タクサ *takusa* (手草) のようにイナウを束 (40~50cm の長さ) にして、母親がイナウタクサ *inawtakusa* で清めてくれる。同じタクサをとっておいて、カムイプアル *kamuy puar* (神窓) の向かった左の横に置いておいた。一週間に1回とかお払いをして、全部で一ヶ月くらいに渡ってお払いしてくれた。

自分を座らせて、はじめに身体の前の方を、頭肩にかけてタクサを振るってお払いする。つぎに後ろから同じようにお払いして、「病気がなくなるように、早く元気になるように」と清めてくれる。おかげで歩けない身体だったのに今では兄弟で一番長生きしている。

タクサは、使い終わるとアペウチ (火の神) に言って、オンネチセ *onne cise* (コタンの中で一番大きな家) にあるヌサ *nusa* の近くで父が燃やした。

[屈斜路 日川キヨ氏]

6—5 人の一生

自分は、大正6年春採 (ハルトリ) に生まれた。父親は、イガリモスケという名で、釧路の人だ。母親は、徹別 (テシベツ) の生まれで秋辺 (アキベ) 家の出だ。

両親ともアウンタリ *auntari* ~アウタリ *autari* (アイヌ) で、母 (ハポ *hápo*) コイのアウンタリ *auntari* (アイヌ語) の名はトゥットゥルセ *Tutturse* といい徹別の生まれ、父 (アチャ *áca*) は、イガリ・モスケといい、釧路の生まれだ。私が生まれたとき父方、母方の祖母 (フチ *huci*) が存命だったが、覚えていない。

5、6歳の頃徹別に移り、16歳まで徹別で育った。3歳の時、小児マヒにかかり、身体が弱かったので、学校に行けなかった。学校は上徹別にあったが、学校に通っていた子供は10人からせいぜい20人くらいだ。

16、7歳まで寝込んでいた。家は4人きょうだいだったが、他の3人の兄弟、姉、兄、妹は

学校へ行った。他に2人の女キョウダイがいたが亡くなっていた。

[屈斜路 日川キヨ氏]

15、6歳のとき阿寒湖畔に移り、そこで日川善次郎氏と結婚した。結婚後、屈斜路に移り民芸店を始めた。

[屈斜路 日川キヨ氏]

6—6 人間の動作・仕草

女が炬ぶち木のそばに座るとき、右膝を立てて左足を折って座る。これは、女のオンネブ onnep (年寄り) の座り方だ (チキリ アシワ ウルツテ アン cikiri as wa urutte an)。母はこのような座り方をしないで、正座していた。男はあぐらをかいていた。

チャシ チャシ cas cas 速く走るということで、ポンノ ポンノ は、少しずつ歩きなさいということだ。

歩くはアクカシ akkas という。

オユブ oyupu は「静かに歩く」ということだと思う。

エタク オブニ etak opuni はやく起きなさい

エタク シヌ アン etak sinu an 早くねまんない (すわりなさい)

「ここにきて座りなさい」は、タアンタ エクワ ウルツテ アン taanta ek wa urutte an という。

エタク オシビ アン etak osipi an はやく帰ってください

[屈斜路 日川キヨ氏]

6—8 交易・通婚・戦争

6—8—4 村と村の関係

カムイノミ kamuynomi (神への祈り) の仕方は、日高、釧路、白糠、阿寒でも少しずつ違う。ウポポ upopo (座り歌) も地方ごとに違う。

[屈斜路 日川キヨ氏]